



# 行事報告

## ザ・シンポジウムみなと in 苫小牧

(一社) 寒地港湾技術研究センター

平成 25 年度の「ザ・シンポジウムみなと」は、11 月 28 日（木）に苫小牧市において開催されました。

本年度は、開港 50 周年を迎える苫小牧港の歴史を振り返り、先人たちの功績や港湾が果たしてきた役割を広く周知するとともに、国際物流の動向に迅速に対応する国際拠点港湾として新たな価値や魅力の創出を目指し、苫小牧港の未来を切り拓く意識と発信力を高める契機として議論していただくために開催されました。当日は苫小牧市をはじめ全道各地から約 280 名の方々が参加されました。

はじめに、主催者として「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の水野委員長から、来賓として苫小牧市長の岩倉 博文様からご挨拶がありました。

基調講演は、政策研究大学院大学客員教授で前国際港湾協会（IAPH）事務総長の井上 聡史氏が「世界の港湾の戦略変化と日本」と題して講演を行い、経済のグローバル化と国際海運輸送の増大が港湾機能の歴史的な構造変化をもたらし、「物流時代の港」から「サプライ・チェーン時代の港」への変貌として新しいロジスティクス付加価値を提供する港湾づくりが求められているとし、ロジスティクス・パークの開発事例としてドイツのブレーメン港と米国・ジョージア州のサバナ港が紹介されました。また、革新的コンテナ・ターミナルの開発として、港湾の規模に応じた自動化



来賓挨拶 岩倉苫小牧市長と市のキャラクター「とまチョップ」

や背後圏アクセスの強化、港湾情報システムの展開が求められていることについて、世界のごく最近の変化や動きについて他の港湾事例とともに紹介され、その上で、日本の港湾がとるべき道として、日本の港湾が持つ位置的な優位性を生かし、成長するアジア市場と連携した国土、地域づくりのためのアジア地域ロジスティクス・システムの構築が不可欠であるとして、国内港湾及び苫小牧港への具体的な戦略等が提言され、講演が締めくくられました。

休息を挟んだ後のパネルディスカッションでは、北海道大学公共政策大学院特任教授の小磯 修二氏がコーディネーターを務め、パネリストとして苫小牧市



開会挨拶 水野委員長



基調講演 井上聡史氏

長の岩倉 博文氏、北海道経済部長の辻 泰弘氏、神戸大学名誉教授の黒田 勝彦氏、苫小牧商工会議所会頭の藤田 博章氏、女性みなとまちづくり苫小牧代表の大西 育子氏の6名の方が参加され、「苫小牧港の未来戦略」をテーマに討論がなされました。

それぞれの立場から、苫小牧港の50年を振り返り思いを述べられた後に、今後の展開に向けて、岩倉市長から「市民と一体となって、50年先の苫小牧港に向け、いろんなチャレンジをしていきたい。ロジスティクスの具体的な展開が港湾・まちづくりのポイント」、辻部長から「北極海航路の活用で欧州が近づき、苫小牧港を拠点に自動車部品や農産品などグローバルな展開が期待できる」、黒田教授から「都市が持つ地理的優位性として、千歳と苫小牧の鉄道沿い中間地点に、港と空港貨物をにらんだ物流センターを整備」、藤田会頭から「今後も苫小牧港への企業誘致に貢献したい。ご当地ソングのない苫小牧に港町ブルースができることを期待」、大西代表からは「ホッキ貝など今地元にあるものを活用し、できることから地域の活性化を図ってはどうか。」とのご提案がありました。

最後に、小磯コーディネーターから「世界の潮流は北方圏にあり、アジアの中の苫小牧港が持つ地理的優位性をどう都市戦略に生かすかが求められる。」と述べられ、シンポジウムが終了しました。



パネルディスカッション



全体風景

**開港50年～未来を拓く苫小牧港～**  
 苫小牧港の歴史を振り返り今後の戦略を考える

**ザ・シンポジウム**  
**みなとin苫小牧**

平成25年 11月28日(土) 14:00～17:00  
 苫小牧グランドホテルニューエ子  
 苫小牧グランドホテル 苫小牧支店 1703-1 TEL0144-51-1111

**PROGRAM**

14:00 開会挨拶 水野 雄三 (ザ・シンポジウム実行委員長)

14:10 来賓挨拶 岩倉 博文氏 (市長)

14:10 基調講演 世界の港湾の戦略変化と日本 井上 聡史氏 (経済研究大学院大学客員教授)

15:10 休憩

15:20 パネルディスカッション「苫小牧港の未来戦略」

17:00 閉会